

# 佃 月島 海の記憶。



「東京明細図会 佃島 灯明台下 汐干」中央区立京橋図書館所蔵

水辺から眺めた  
佃・月島・勝どき・  
豊海・晴海エリア

主催／豊海おさかなミュージアム・東京水産振興会



# その時、家康が見たものは、江戸湊という誰もいない海。

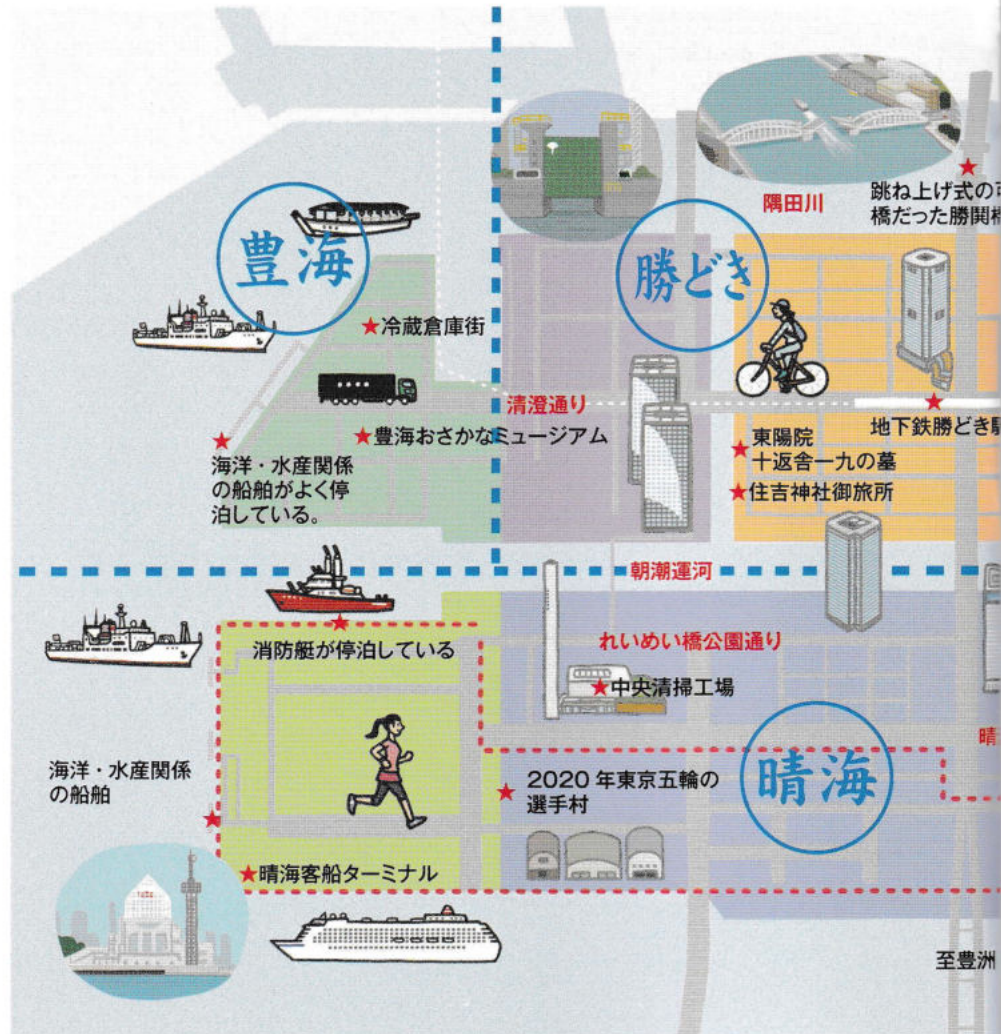
今の東京からは想像もできないことですが、徳川家康が豊臣秀吉の命を受けて江戸に移り住んだ16世紀末には、日比谷はまだ海の中にありました。民家は日本橋周辺に百軒ほどある程度。日本橋本町から銀座にかけては江戸前島と呼ばれる小さな半島で、さらに東、今の昭和通りあたりから先には江戸湾が広がっていました。

その海は江戸湊と呼ばれ、隅田川が運ぶ土砂によって作られた、浅く広大な入り江でした。隅田川を挟んだ対岸は、今の江東区佐賀町あたりまでが海で、江戸前島の波打ち際に立つと、2kmほど沖合には木の茂った島が見えたはず。これは当時、森島と呼ばれた無人島で、後に江戸幕府の船手頭を務めた石川重次が拝領し、屋敷を構え、石川島と呼ばれるようになります。

## 江戸の人口爆発によって、江戸湾の歴史が始まる

さて、関ヶ原の戦いに勝利し、天下を統一した徳川家康は、1603（慶長8）年、江戸に幕府を開きます。それと共に城下町の建設に着手。諸国から大名や人夫たちを呼び寄せて、天下普請と呼ばれる大規模な土木工事が始まります。

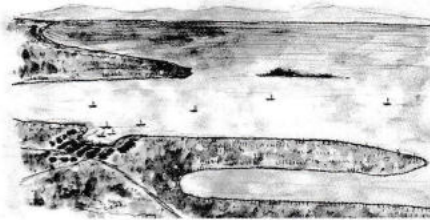
まず江戸湾に注いでいた利根川を太平洋に移すという有名な東遷工事を行い、隅田川の流路を安定させました。併せて神田山を崩しながら日比谷入り江や江戸湊の干潟を埋め立て、小名木川、新川、神田川などの運河を開削。江戸城



下への物流のルートを開拓します。ところで、ここで思いもよらない問題が起きました。このような大工事に伴う急激な人口の増加と、それに伴う食糧難です。米や野菜はどうか足りていたものの、不足したのはタンパク質でした。当時は動物の肉を食べる習慣がなかったため、必然的に江戸湊の魚が必要になったのです。しかしその頃の江戸には漁師が少なく技術も未熟で、爆発的に増える江戸の人口を支えることができませんで

た。そこで徳川家康は、以前から関わりが深く、高い技術を持った摂津国佃村の漁師を江戸に呼び寄せます。間もなく始まる参勤交代の制により、さらなる人口増加が予想される中、安定した漁獲量を確保することは、当時の江戸幕府にとって重要な政策のひとつだったのです。こうして江戸前文化の扉が開かれ、今日まで続く東京湾岸の歴史が始まります。





1590年頃（慶長期）の江戸湊想像図と海岸線。今の京橋から銀座は江戸前島という半島で、沖合に森島（今の石川島、佃）が見える。『月島再発見学』志村秀明／著 アニカ／刊、より。

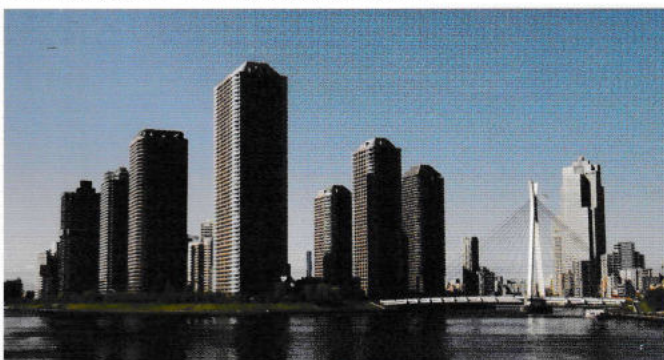


### 佃・月島年表

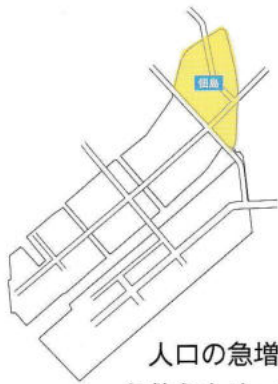
1590	天正18年頃	豊臣秀吉による徳川家康の関東転封。城下町の建設が始まる。
1603	慶長8年	江戸幕府開幕。日比谷入り江の埋め立てが始まる。日本橋、京橋が架橋される。
1612	慶長17年	徳川家康の命により、摂津国佃村・大和田村の漁師たち、江戸へ移住。
1616	元和2年頃	このころ大和屋助五郎、本小田原町（今の室町一丁目）に魚市場を開いたといわれる。
1626	寛永3年	幕府船手頭、石川八左衛門政次が隅田川河口の無人島を拝領。造成して屋敷地とした。以後、石川島と呼ばれる。
1644	正保元年	佃村から移住した漁師たちが石川島の隣の干潟を幕府から拝領。故郷の名を取って佃島と命名。
1645	正保2年	佃の渡しが始まる。
1646	正保3年	摂津国住吉神社から分祠を受けて、佃島に住吉神社を造営
1658	万治元年	築地の埋め立てが始まる。
1698	元禄11年	永代橋架橋
1790	寛政2年	火付け盗賊改メ方、長谷川平蔵の献策により、更正施設、石川島人足寄場を建設
1792	寛政4年	石川大隅守の移転により、石川島全体が人足寄場の敷地となる。
1853	嘉永6年	ペリー来航
1853	嘉永6年	水戸藩、石川島に造船所を創設
1864	元治元年	佃島地先に砲台が築かれる。
1866	慶応2年	日本初の蒸気軍艦「千代田型」を完成させる。
1867	慶応3年	大政奉還
1876	明治9年	日本初の民間洋式造船所、石川島平野造船所設立
1892	明治25年	月島の埋め立てが完成
1894	明治27年	月島二号地（現・勝どき1～4丁目）の埋め立てが完成
1894-95	明治27～28年	日清戦争
1895	明治28年	石川島の監獄所が巢鴨へ移転
1896	明治29年	新佃島（現・佃2～3丁目）の埋め立てが完成
1903	明治37年	相生橋架設。月島に水道が敷設される
1904-05	明治37～38年	日露戦争
1905	明治38年	海水館開業
1913	大正2年	西仲通りに露天商が出始め、夜店通りと呼ばれる。
1915	大正4年	新造船ラッシュ到来
1918	大正7年	月島三号地（現・勝どき5～6丁目）の埋め立て完成
1923	大正12年	関東大震災発生
1931	昭和6年	月島四号地（現・晴海）の埋め立てが完成
1932	昭和7年	豊洲の埋め立てが完成
1939	昭和14年	内務省令により、月島は工場地域に指定される。
1940	昭和15年	晴海で開催が予定されていた万国博覧会が中止される。隅田川に大型跳開可動橋、勝間橋架設
1941-45	昭和16～20年	太平洋戦争
1945	昭和20年	東京大空襲
1955	昭和30年頃	造船ブーム到来
1955	昭和30年	晴海国際見本市会場が完成
1958	昭和33年	日本初の団地、晴海高層アパート13棟が竣工
1962	昭和37年	月島地区の防潮堤工事着工
1963	昭和38年	豊海の埋め立てが完成
1964	昭和39年	佃大橋架設。佃の渡しの廃止 東京オリンピック開催
1965	昭和40年	月島・晴海地区の防潮堤完成
1970	昭和45年	勝間橋の開閉終了
1979	昭和54年	石川島播磨重工業、佃工場を閉鎖
1988	昭和63年	営団地下鉄有楽町線、月島駅開業
1993	平成5年	中央大橋架設
2000	平成12年	都営大江戸線、月島駅、勝どき駅が開業



石川重次の屋敷が建てられた石川島には、江戸～昭和にかけて造船所が建てられ、現在は高層マンションが建ち並ぶ。『空から見た石川島造船所』中央区立京橋図書館所蔵。







# 佃

## 江戸の名残を今に残す、 奇跡の島、東京の漁師町

人口の急増する江戸を食糧難から救うため、将軍徳川家康自らが摂津国佃村の漁師を江戸に呼び寄せた。とは言え、なぜ佃村だったのでしょか？

両者の出会いについては諸説あります。まず1582(天正10)年に起きた本能寺の変まで遡るというもの。これは明智光秀謀反の報せをわずかな手勢と共に堺で聞いた家康が、光秀からの追討を避けるため、三河への脱出を開始。摂津国の神崎川にさしかかったとき、船を持たない一行に対して便宜を図ったのが田蓑村(後の佃村)の漁師たちだったという説。

また1586(天正14)年、家康が上洛の折、摂津国多田神社に参拝した際に神崎川の出水に遭い、渡船を田蓑村の漁師たちが提供したという説。

いずれにしてもこの頃、徳川家康は田蓑村を訪れ、彼らの献身的な働きや漁の技術の高さに感銘を

受けたことは確かなようです。家康が田蓑村の名主、見一孫右衛門の屋敷に立ち寄った際、庭先に立つ三本の松の木を見て、孫右衛門に森の姓を与え、田蓑村に佃村の地名を授けたと伝えられています。この地名には、漁業の傍ら田も作るようにとの思し召しがあったようです。

### 最新の技術を導入して、 食糧難から江戸を救う

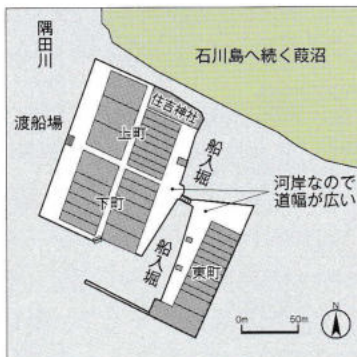
佃に伝わる当時の話をまとめた『その昔佃島漁師夜話』(石井きんざ/著)によると、いかに将軍の命とはいえ、村を離れて江戸に行こうという漁師はなかなか現れなかったとのこと。しかし、「これはただの漁ではない。江戸の人たちを助けに行くのだ」という森孫右衛門の説得により、1612(慶長17)年、佃村と大和田村の漁師、総勢33名が集まります。

彼らは漁船5隻に最新の漁具を

積み、海路と陸路に分かれて江戸へ向かいました。やがて、「大坂から腕のいい漁師たちが、大勢で江戸にやって来るらしい」という噂が江戸中に広まり、到着の日、品川・御殿山の高台には黒山の人だかりができたそうです。そこで江戸の人たちが見たものは、これまで見たこともないほど大きな漁船の船団でした。

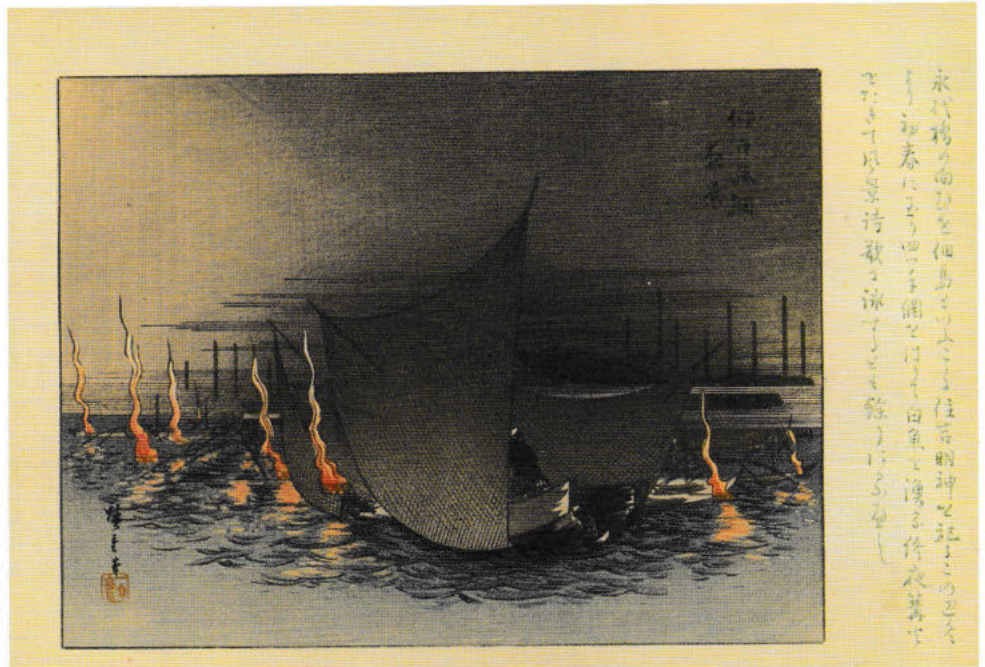
こうして江戸にやって来た佃村の漁師たちは、幕府の重役である安藤対馬守重信の屋敷を仮住まいとし、旅の疲れを癒やす間もなく初めて見る江戸湊に出ました。その日のようすは、

《暁七ツ半(午前五時)に出漁して明六ツ半(午前七時)頃に漁場に着く。直ちに網を入れたが、魚の種類多く平目、鯛、黒鯛、すずき、かれい、皆んな大型が多く、量の多さに驚く大漁にて昼八ツ半(午後三時)頃引揚げる》と、『その昔佃島漁師夜話』に書かれています。



1710年の佃島。渡船場が江戸城に面した表玄関。船入堀も佃小橋の位置も今と変わらない。東町から先は東京湾。『月島再発見学』志村秀明/著 アニカ/刊、より。

江戸の街が繁栄すると共に佃の白魚は江戸名物になり、「鯛は白魚に生海苔、貝の柱に萌し三葉。冬にこれを食べないものは、卯月の鯉と同様、江戸っ子の恥」とさえ言われるようになりました。船ごとに篝火を焚く跳めは江戸の冬の風物詩で、そのようすは品川あたりからも眺めることができました。『江戸土産-佃白魚網夜景』中央区立京橋図書館所蔵。





この魚は品川の浜で待ち受けていた江戸城や大名屋敷の侍たちに納められ、残りは多くの町人たちに配られました。身分の差なく、魚を待ちわびていた江戸の人々を歓喜させたそうです。

1613(慶長18)年、佃村一行に対して「浅草川(現在の隅田川)と稲毛川の一部を除く、全国のどこで漁をしてもよい」という漁業特権が与えられます。将軍の御膳に魚を献じる御用漁師である一方、江戸の漁師に対して技術指導を行い、彼らは江戸での地歩を築いて行きました。そして1616(元和2)年頃、日本橋に魚市場が開かれ、江戸市中への魚の供給は安定に向かいます。

そのような中、安藤対馬守重信の屋敷を仮住まいとしていた佃村一行は、1630(寛永7)年、石川島南の干潟百間(約180m)四方を幕府から拝領。彼らは漁の合間を縫って、昼夜休むことなく造成工事を行い、1644(正保元)年、約8500坪の人工島を完成させます。この島は、故郷佃村の地名を取って佃島と命名されました。

以降も佃島漁師は将軍家の御用



佃島築島以来、約320年間続いていた「佃の渡し」は、1964(昭和39)年の佃大橋開通と共に、その役割を終えました。この写真は昭和37年。「佃の渡し」中央区立京橋図書館所蔵。

現在の渡船場跡。今では漁船が係留され、漁師町としての面影を留めています。



漁師として活躍。とりわけ白魚については本業としての漁が始まります。家康の代、白魚は将軍の御膳に供される魚として、売買は禁じられていました。しかし家康没後に御止魚の禁は解かれ、江戸の繁栄と共に、佃の白魚は浅草川の海苔と並び称される江戸の名物へと育って行きました。

### 江戸が東京に変わっても、守られる佃島漁師の伝統

時は明治へと移り、豊かな漁場だった江戸湊は、帝都東京を守る東京湾へと変貌します。幕末に創設された石川島造船所は日本初の民間洋式造船所へと成長し、その企業城下町として、小さな佃島を取り囲むように月島、新佃が生まれ、工業化を極めて行きます。そのような中、明治、大正期を通じ

て漁師町佃も健在。漁は変わらずに続いていました。

1869(明治2)年、佃島の全世帯数247のうち、職業別で最も多いのは漁師で160世帯。しかし戦後の高度経済成長期を通じて東京湾の水質は悪化し、歴史に残る佃島の漁業は衰退を余儀なくされます。

しかし、摂津国から続く大家族のような結束は昔のまま。地名が佃一丁目と変わった今も、この街に数多く残された伝統行事や景観は頑なに守られ、生きた江戸の文化を伝える街として、新たな注目を集めて行くことでしょう。

なお、徳川宗家との繋がりも変わらず、今でも毎年3月、白魚献上の儀式が行われています。

## その日、佃は江戸に戻る。2つの夏祭り

### 太鼓一つで歌い踊る佃の念仏踊り

毎年7月13～15日の夜、渡船場通りで行われる盆踊り。起源は、火災で焼失した西本願寺を、佃島住民一統で築地に再建させた1680(延宝8)年に遡ると言われています。



江戸時代、幕府による治安維持政策のため、江戸では佃島以外での盆踊りは禁止されていました。つまりこの念仏踊りは、東京で伝承される唯一の江戸の盆踊りなのです。歌い手が自ら太鼓を叩きながら唄う口説き唄で、踊り手からは哀感のある囃子詞が続く。東京都の無形文化財。

### 三年に一度行われる、住吉神社の大祭とは?

住吉神社の例祭は、毎年8月6日と7日に行われ、江戸時代に多くの錦絵に描かれた本祭りは三年に一度、週末を加えた四日間。獅子頭や八角神輿(共



に中央区区民有形民俗文化財)の宮出し、神輿を船に乗せて氏子地域を回る船渡御が行われます。

本祭りの年は一ヶ月前くらいから準備に入り、大幟が翻る頃にはすでにお祭り気分。時代劇では再現できそうにない、リアルな江戸の姿を見ることができます。





# 月島 勝どき

## 東京の近代化を支えた 明治生まれの江戸の街

時代は明治に移り、城下町江戸は国際都市東京へと生まれ変わります。となると江戸湊には首都を支える港としての機能が求められますが、この海は浅く、大型船の

航行ができませんでした。

そこで1887(明治20)年、海を深く掘る浚渫工事が始まります。同時に工事に出される大量の土砂を使って佃島地先の浅瀬を埋め立

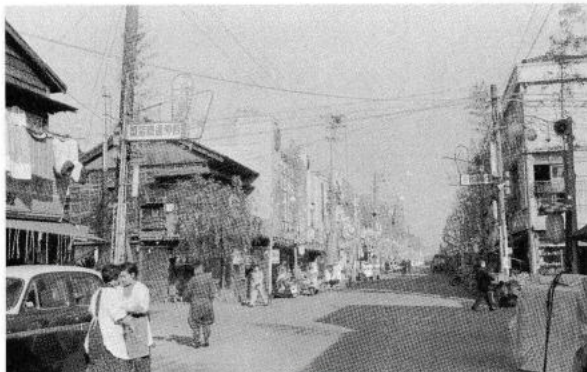
て、新たな島を築く計画が立てられました。その埋め立てが完了するのは1892(明治25)年。この島は月島一号地と名付けられます。

こうして歴史上に初めて登場した月島では、最初に街割りが決められました。

### 街割りは江戸時代と同じ 長屋と路地は今も健在

まず、月島を背骨のように走る清澄通りが通されます。これは幅20間(36m)という、当時としては破格に広い道路でしたが、その理由は月島に埠頭としての役割が期待されていたからです。次に基盤の目状に六間道路が、さらに正方形の一町街区を二つに割る三間道路が通されます。

かつて江戸の街は、どこもこの一町街区を単位に作られていました。しかし関東大震災と東京大空襲による二度の大火災で消失し、新たな都市計画のもとで復興されました。しかし月島は震災後も古い街区のまま復興し、東京大空襲の標的から外されたため、今も江



1958(昭和33)年当時と現在の西仲通り商店街。東京タワーの完成した年には、このような雰囲気だったのです。写真左「月島西仲通り商店街」中央区立京橋図書館所蔵



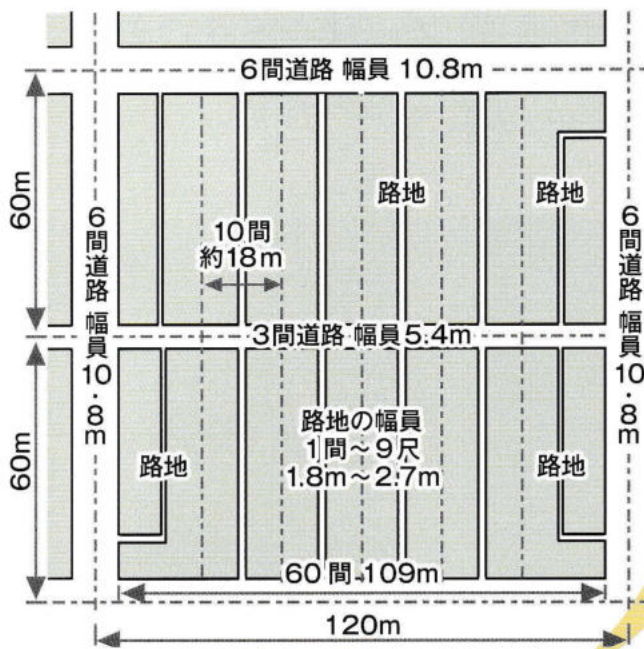
1964(昭和39)年。「勝どき二丁目 都電月島停留所」中央区立京橋図書館所蔵

西仲通りの真ん中には東京で最も古い交番があります。現在も地域安全センターとして活躍中



アーケードの上の看板を眺めると、かつての西仲通り商店街のようすが偲べれます





一町街区と路地形成の基本パターン。街区の長辺を6分割し、その間に路地が通されました。道幅は一間から九尺(1.8~2.7m)。長屋一戸の標準的な間口は二間で、二間長屋、四間長屋が多く建てられました。なお、昭和13年より建築敷地の接道道路最低幅員は4mに引き上げられたため、それ以降、日本の街では路地が新たに作られることがなくなりました。『月島 再発見学』志村秀明・著 アニカ・刊より

戸の街割りを残しているのです。月島一号地が生まれた2年後には月島二号地(現在の勝どき1~4丁目)、その2年後には新佃(現在の佃2~3丁目)が相次いで誕生。続いて1903(明治37)年、水道橋を兼ねた相生橋が架橋され、月島はいよいよ人の住む島として生まれ変わりました。

その頃、日本国内では日露戦争が始まり、世界では第一次世界大戦に向かう不穏な時代。しかしこの時代背景が日本の工業化を進め、石川島造船所を支える中小の工場が月島に押し寄せます。

清澄通りを境に、主に東側には

工場が、西側には倉庫が並び、仕事を求める労働者たちが全国から集まり長屋が形成されました。ちなみに1918(大正7)年の人口は2万8706人。急速に工業化の進んだようすが伺えます。

### 工場の街に育まれた、月島ならではの生活

人口の増加に伴い、西仲通りには商店が並び始めます。月島の渡しが近く、六間という道幅が買い物にも適していたからでしょう。労働者の街だけに、日用品が安く買えると評判を呼び、買い物客は月島の外からも訪れるようになり

ました。こうして、今も月島の顔である西仲通り商店街が生まれま

す。通りから一步入ればそこは路地裏。ここには路地裏独特の生活文化が生まれていました。たとえば声かけ、鍵をかけない、お裾分けなど。ご近所どうし声をかけ合っ

ていれば治安は保たれるというわけです。太平洋戦争で大きな戦災を受けなかった月島は、路地の街としての姿を残したまま高度経済成長期を終えます。1979(昭和54)年には石川島造船所が移転し、中小の工場や倉庫も月島から次第に姿を消しますが、代わりに築地から水産加工会社が進出し、月島・勝どきの賑わいを守り続けています。

今では道路も地下鉄も通り、都心の住宅地として注目を集める月島、そして勝どき。さすがに長屋の鍵を開けたまま外出できなくなったようですが、今でもご近所どうしの挨拶は変わりません。また、クルマ社会到来の前に作られた狭い道路では、今でも人が主役です。長屋の前には植木鉢が並び、路地で立ち話に興じるお年寄りの姿に、少し昔の東京を思い出す人も多いことでしょう。この貴重な景観を、大切にしたいものです。



路地を歩くと鉢植えの花がいっぱい。長屋の形を活かしたリノベーションも行われ、月島の景観を守っています



昭和の商店街が、そのまま蘇るような商品たちに出会えます

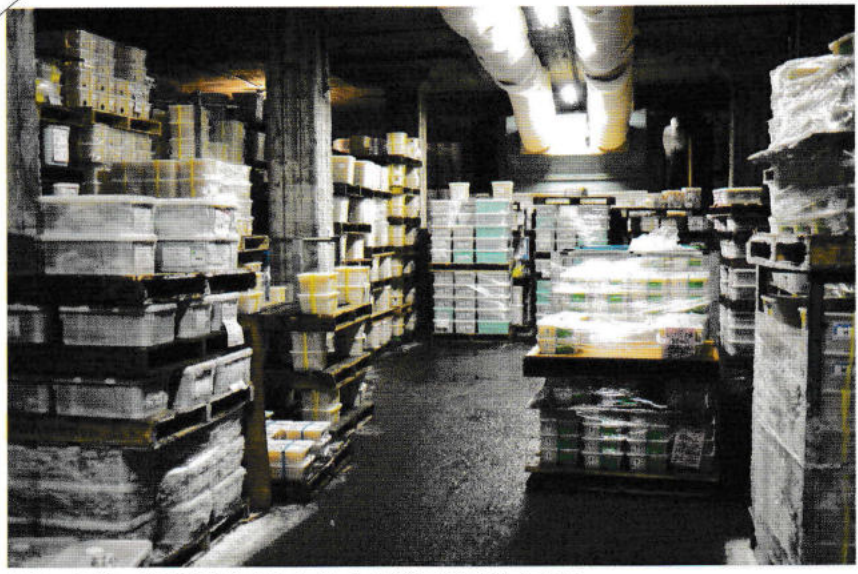






# 豊海

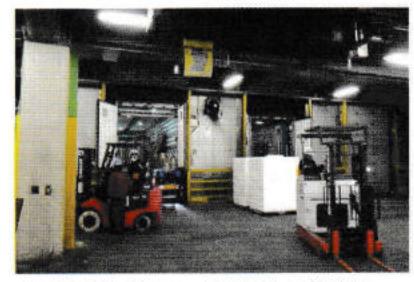
## -25°Cの冷蔵倉庫の中は ごちそうで一杯でした



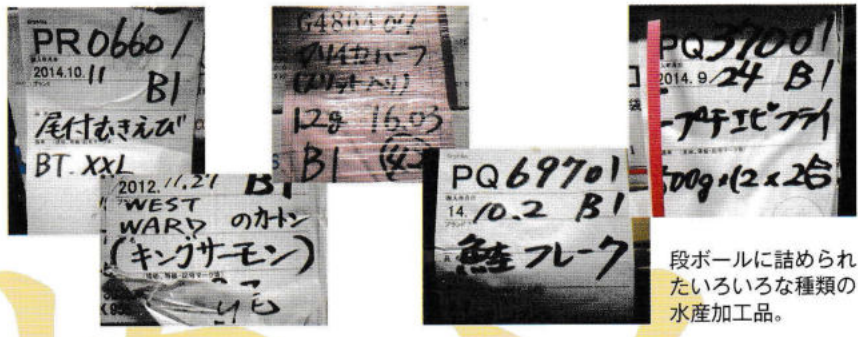
室温-25°C。防寒着を着てもすぐにカラダの芯から冷えます



トラックはバックでコンテナをドッキング



小回りの効くフォークリフトで仕分け



段ボールに詰められたいろいろな種類の水産加工品。



指定された冷蔵庫へ運搬します

豊海エリアには、冷蔵倉庫が建ち並んでいます。倉庫の中はどうなっているのでしょうか。8社ある豊海の冷蔵倉庫の中でも最大手のマルハニチロ物流の倉庫を見学させていただきました。

そもそも豊海エリアは隅田川をはさんで向かいにある築地市場の補完機能を目的として埋め立てられた土地。なので、倉庫の荷物の多くは魚介類です。かつては国内産の魚が主流でしたが、現在は8~9割が海外からの輸入品なのだとか。

日本が輸入しているサケ類の約56%、エビ類の約58%はコンテナに積み込まれ東京港にやってきます。その多くは大井埠頭でコンテナ

を下ろし、トラックで豊海や大井、城南、平和島などの倉庫に運ばれます。

倉庫に着くとトラックは外気を遮断するためにゴムで覆われた搬入口にコンテナをびたりとドッキングさせてから荷物を降ろします。荷物はフォークリフトを使って仕分けられ、冷蔵庫に運ばれます。

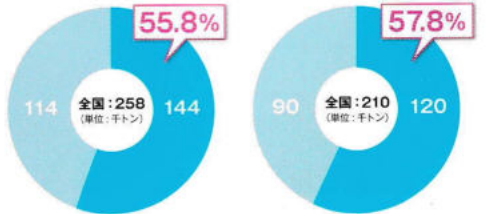
冷蔵庫は荷物の内容によって設定温度が異なりますが、見学させていただいた倉庫の中は-25°C。夏は倉庫内と外では気温の差が60°C近くにもなるので、タフさが要求される仕事です。

冷凍というと季節が関係ないイメージがありますが、倉庫にも季節の移り変わりはありま

す。例えばサケ類の場合、秋はチリ産トラウトが主体ですが、それがチリ産ギンザケ(12月~3月頃)に変わり、春にはノルウェー産トラウトがやってきて、夏場はアラスカ産のサケ類……と産地や種類が移り変わるそうです。

カニも夏場はカナダ産ズワイ、秋はアラスカのタラバ、年明けはアラスカ産ズワイと変化します。

水産物輸入に占める東京港の割合(2011年)



出典: PORT OF TOKYOより





# 晴海

## 「東京鰹節センター」のいい匂いに猫まっしぐら

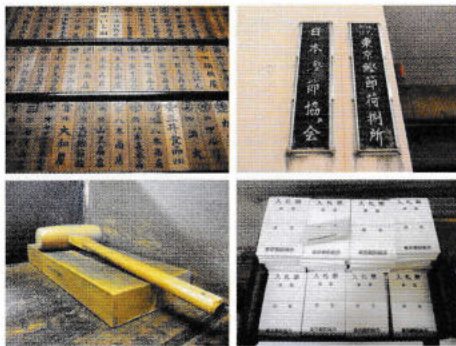


フロア一面に並べられた競りにかけられる鰹節。

仕入れた品物ごとに荷受業者が競り台に立つ。



節が並べられた青い箱は20kg入り为标准。



左上=組合員の屋号札。右上=東京鰹節センターは1971年(昭和46年)に建てられた。右下=束になった入札票。左下=買い手が決定したときに鳴らす木槌。



節の味の決め手は良質の魚、丁寧な加工、長時間の乾燥。用途によって使われる節は異なり、地域によって好みは異なるので奥が深い。



どっちの鰹節が上等? 答えは本文で。

2020年東京で開催される五輪の選手村になることでも話題の晴海。高層マンションの建設も盛んですが、勝どきから黎明橋を渡ると鰹節の香ばしい香りが漂ってきます。

香りのもと「東京鰹節センター」。建物の一階には鰹節問屋がずらりと並び、たまらなくいい香りを発しています。ここで月に一度、鰹節の競りが開かれているというので見学してきました。競り会場はビルの2階。「本節」「南方一本釣本節」「亀節」「枯宗田」「カビ宗田」「猫丸さば」……いろい

ろな種類の節が青い箱に入って並んでいます。早くも目利きは始まっていて、今日はどれをいくらで仕入れるか、買受業者の目は真剣です。

「枯宗田、四つ(4箱のことです)」と品物の種類と数、大きさを知らせる声とともに競り台の前のローラーに品物が置かれます。買いたい人は値段と名前を書いた入札票を競り台の人に渡し、カーンという木槌の音とともに一番高い値段を付けた人の名前と値段が読み上げられます。

素人が見ても、どれがいいのか

など皆目見当が付きません。鰹節問屋「伊勢啓」三代目の中島敏之さんが取り出した2本の背節(写真参照)。同じように見えますが、上等なのは太くて大きくふくよかさを感じる上の節。まずカツオ本体の質を確認し、次に見るのはカビのつき具合。全体にまんべんなくカビがついた茶色い方がより乾いて熟成しているのだそうです。



# 路地が育てた ソウルフード

漁師の街と工場の街。まったく個性の違う佃と月島が隣り合い、日本を代表する庶民の味を育ててきました。共通点は気取らずに食べること。夕方の路地裏に漂う香りに誘われて、江戸の暮らしを想像したり、少し昔の東京を思い出したり。



路地裏の子どもたちの味は、  
今も大人の味へ成長を続ける

かつての月島は町工場と長屋の密集地帯。となると子どもたちの遊び場は路地であり、駄菓子屋でした。昭和初期の月島には、実に130を越える数の駄菓子屋があったと言われています。その多くが長屋の玄関先に菓子箱を置いただけの小さな店で、玄関の中に入ると、そこにはたいてい一枚の鉄板が置かれていました。

店のお婆さんが鉄板を熱くして、水で溶いた小麦粉にウスターソースを混ぜて流す。それを子どもたちは焦げたところまで剥がし取って食べる。これが当時の東京の下町に多く見られた『もんじゃ焼き』のルーツです。

やがて1950年代にはキャベツやサクラエビ、紅ショウガなどの具が入ったもんじゃが登場。西仲通り商店街に数軒のもんじゃ焼き屋が現れる頃には、生イカ、切り肉、ソバなど定番の具が加わり、大人のもんじゃへと成長し

ていました。

そして1970年代の後半、商店街から少し外れた路地に、一軒のお店が生まれます。

「ここは人通りが少ないから、何か新しいメニューを作って人を呼ばなくては……」

と思いついたのは、もんじゃに革命を起こした店として知られる『錦』の古澤智恵子さん。

「近所にめんたいご専門の店があって、あれをもんじゃに使えないかな、と試作を繰り返していたんですよ」

その『めんたいごもんじゃ』が女性誌に取り上げられて爆発的にヒット。遠くからバスでやって来るお客さんが店の前に行列を作り始めました。こうして路地裏の子どもたちの味は、全国へと広がって行ったのです。



# もんじゃ





## 佃島漁師の知恵から生まれた、和食の定番。江戸庶民の味

今では全国で作られている佃煮ですが、いうまでもなく、江戸時代半ば頃に、ここ佃島で生まれた常備菜です。

いかに大都市江戸の佃島とはいえ、ひとたび海が荒れたら一歩も島の外に出られません。そのような時に備えて、エビ、アミ、シラスなど、江戸湊で取れた魚介類を塩で煮込んで保存食にしたのが始まり。やがて千葉の醤油が江戸に伝わると、醤油で煮込む今の形に生まれ変わります。

それに目をつけたのが諸国の大名たち。これは保存が利く、ということで、参勤交代で諸国に持ち帰るようになり、全国に広まって行きました。同時に江戸の庶民の間にも評判が広まり、物売りたちが江戸市中を売り歩きます。こうしていつしか佃煮という名前が生まれ、庶民の食卓に定着したのです。

現在も、佃の旧渡船場の周りには三軒の佃煮屋さん軒が軒を連ねています。お店は古い順に『天安』は天保8(1837)年、『佃源 田中屋』は天保14(1843)年、『丸久』は安政6(1859)年に、それぞれ創業されています。

『天安』の帳場を仕切る鎌田紀子さんに最近の売れ筋をうかがうと、「昆布、アサリ、あとは秋季限定のイナゴ、とか。角煮もご好評をいただいておりますが、これはお客様のご要望で生まれたものなんです」

ちなみに関東大震災の時、『天安』の四代目ご主人は、創業当時から使われていた秘伝のタレを壺に入れて持ち出したとのこと。おかげで今でも、江戸庶民と同じ味を楽しむことができるといわけです。三軒の味を食べ比べてみるのも楽しいでしょう。

## 町工場からの帰りに軽く一杯、串を持って上を向いて食べよう

佃・月島界隈のソウルフードといえは、多くの人は『もんじゃ焼き』を思い浮かべることでしょう。たしかに正解。でもここに年配の男性が現れると、もうひとつ違うメニューをあげるかもしれません。その名も食欲をそそる『レバフライ』です。

かつて月島に工場や倉庫が並んでいた頃、街中に『肉フライ』の屋台が出ていました。これは馬肉を叩いて薄く伸ばし、串を刺したまま油で揚げて、ウスターソースに浸ければできあがり。串を持つとフライがぶら下がる格好になるので、みんな上を向いて食べることになりました。まだ経済的に豊かではなかった時代、労働者たちに喜ばれたスタミナ源だったわけです。「それを最初に豚のレバーで揚げたのが私の父なんです」

と語ってくれたのは、今では唯一のレバフライ専門店となった『ひさご家阿部』を営む阿部芳子さん。「もともと西仲通りの居酒屋だったん

ですが、メニューに加え、たレバフライを持ち帰る人が多くなって、だったら専門店ができるかもしれない」と

それが瞬く間に佃・月島の名物になり、働き盛りのお父さんたちのソウルフードへと育って行きました。

レバーは1mmほどまで薄く切り、植物性の油を高めに熱してサッと揚げる。

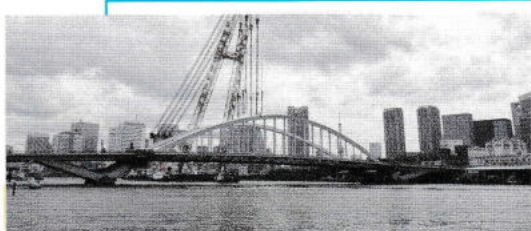
あとは秘伝のソースに浸けたらできあがり。熱々をその場でいただくのもいいけれど、日持ちがするので、手土産としても人気の一品です。

昭和24年の創業当時は一枚5円。値段はだいたい都電の運賃に合わせてきたとのこと、今は一枚150円。たしかに都バスの料金よりも少し安い。庶民の味方は健在なのです。



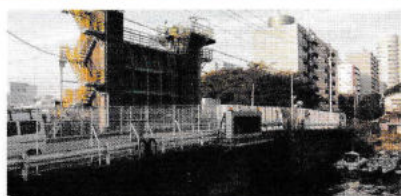


# 水の都・東京、橋ものがたり



## 築地大橋

中央区築地5丁目と中央区勝どき5丁目を繋ぐ。橋の長さは245m。2020年東京オリンピック、パラリンピック開催に向け、東京都が整備を進めている東京都市計画道路環状第2号線のうち、隅田川に架かる橋。名称は2014年9月、一般公募によって決められました。



## 浜前橋

勝どき3丁目と、勝どき4丁目を繋ぐ。架橋は1964年、橋長9.9m。ここからは築地大橋がよく見えます。



## 新島橋

勝どき3～4丁目と、勝どき5～6丁目を繋ぐ。架橋は1959年、橋長47m。



## 西仲橋

中央区月島3丁目と勝どき1丁目を繋ぐ。架橋は1956年で、2014年に架け替えられ、月島側橋詰には、かつての橋脚に使われていた木材がベンチとして利用されています。橋長43.2m。



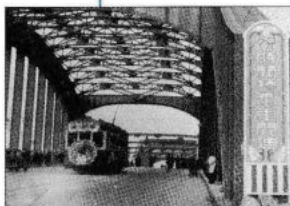
## 月島橋

月島3～4丁目と、勝どき1～2丁目を繋ぐ。架橋は1970年、橋長43.6m。月島4丁目橋詰には関東大震災で流れ着いた遺体を慰霊する「大震災犠死慰霊之塔」が建てられています。

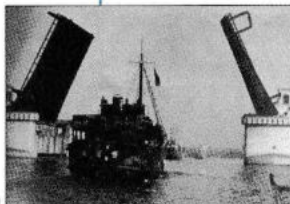
橋は人が集まる場所。だから橋の回りでは、渡船場の跡や記念碑など、まちの歴史を語る多くのものに出会えます。そこで見るものは、水の都の記憶の数々。あるいはこのまちを作った人たちの、喜びとか苦勞とか賑わいとか。クルマで通過してしまえばただの道路だけど、一度歩いて橋を巡ってみませんか？

## 勝鬨(かちどき)橋

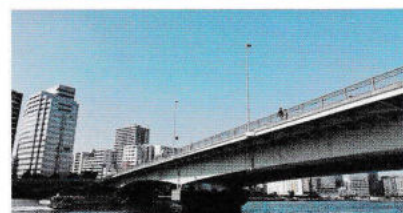
橋の名前は、日露戦争の勝利を記念して、築地と月島の間に設けられた渡し船「かちどきの渡し」に由来します。竣工は1940年。この年、東京オリンピックと共に晴海で開催が予定されていた東京万国博覧会に合わせて架橋が急がれたものの、日中戦争の激化により、オリンピック、万国博覧会共に中止されました。国内唯一のシカゴ型双葉跳開橋。築地6丁目と勝どき1丁目を繋ぐ。橋長246m。国指定重要文化財。



かつて勝鬨橋の上を都電が走り、月島・勝どきと渋谷、新宿方面を結んでいました。写真は1947年。『勝鬨橋橋上電車通過』中央区立京橋図書館所蔵



可動部は70度まで70秒で開き、その間、晴海通りは20分間通行止めになりました。1970年11月29日を最後に開閉を中止。しかし、現在でも動かせるように、機械のメンテナンスは行われています。『勝鬨橋』中央区立京橋図書館所蔵



## 佃大橋

中央区佃1丁目～月島1丁目と中央区湊3丁目～明石町を繋ぐ。橋長は220m。東京オリンピック開催に備えた関連道路として、1964年8月に架橋され、これによって1645年から約320年間続いた佃の渡しが廃止されました。他所で作られた長さ40m、重量150トンにも及ぶブロックを、当時日本最大であったクレーン船で一気に組み上げるという、大ブロック一括架設方法を採用。当時の技術の粋を凝らして建設されています。



開通式の渡り初めには、3年に一度の例大祭にしか姿を見せない住吉神社の神輿、通称「八角神輿」が橋を渡りました。『佃大橋 開通祝賀式』中央区立京橋図書館所蔵



## 佃小橋

佃堀に架かる佃のランドマーク。両岸とも佃1丁目。橋の長さは12.5m。現在の橋に架け替えられたのは1984年。この橋の下には、住吉神社の大祭で使われる大織の柱が保存のために埋設されています。



# 呑 高



## 晴月(せいげつ) 橋

晴海1丁目と月島4丁目を繋ぐ。架橋は1959年5月。橋長95.5m。



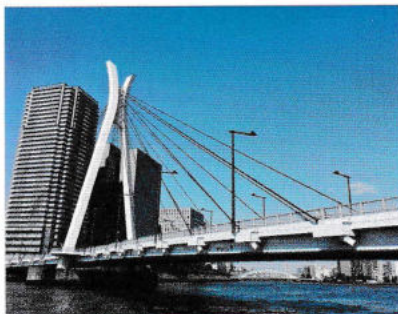
## 黎明橋(左)トリトンブリッジ(右)

晴海3丁目と勝どき4丁目を繋ぐ。黎明橋の架橋は1979年3月。橋長88.2m。トリトンブリッジは屋根付きの歩行者専用橋。中には動く歩道が通ります。



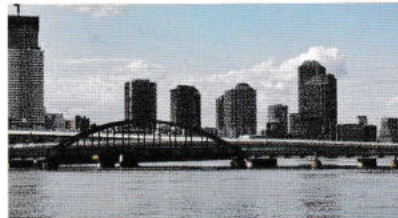
## 朝潮小橋

勝どき6丁目と晴海5丁目を繋ぐ人道橋。架橋は1998年。全長112.5m。



## 中央大橋

1993年8月26日、レインボーブリッジと同じ日に架橋。橋長は210.7m。中央区佃2丁目と中央区新川2丁目を繋ぎます。この橋の開通により、八重洲通りが清澄通りと繋がり、佃・月島と東京駅が近くなりました。テレビドラマの撮影が多いことでも有名。新川側の橋詰には霊岸島検潮所の跡があり、かつてはここで測定された潮位から、全国の平均海面が求められていました。



## 春海(はるうみ) 橋

晴海1丁目と江東区豊洲2丁目を繋ぐ。架橋は1973年3月。橋長は上りが172.8m、下り(高架部分を含む)が453.9m。総武線亀戸駅から晴海まで通っていた、貨物の引き込み線跡が並行しています。



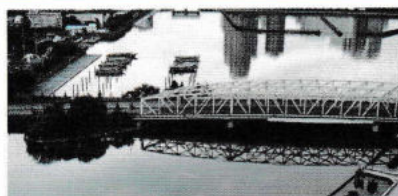
## 春海橋梁

春海橋と並行して走る線路は、『仮面ライダーV3』がライダーマンと出会う場面のロケで使われ、ファンの間で有名になりました。



## 晴海大橋

晴海3丁目と江東区豊洲6丁目を繋ぐ。架橋は2006年3月。橋長580m。橋の下を流れる晴海運河までの高さは24.2m。歩道が広く、豊洲側、レインボーブリッジ側共に眺望がよく、最高部にはベンチも用意されています。かなりの勾配があり、トレーニングで走るランナーが多い。



## 相生橋

最初の架橋は1903年。新たに築島された月島への水道橋を兼ねて、現在の江東区越中島1~2丁目と、中央区佃2~3丁目の間に架橋されました。市電を通す目的から、1919年に拡幅。しかし1923年の関東大震災で消失し、佃、月島は陸の孤島と化しますが、1926年、震災復興事業の最初の橋として鉄鋼ゲルバー橋が再架橋。その後の交通量の増大により橋の老朽化が進んだため、1998年、現在の橋に架け替えられました。



## 朝潮橋

晴海1丁目と月島2丁目を繋ぐ。架橋は1979年11月。橋長86.0m。月島側橋詰に、関東大震災の犠牲者を慰霊する『釈迦堂』があります。



## 豊洲大橋

晴海5丁目と江東区豊洲6丁目を繋ぐ。環状2号線の一部を成す道路橋で、橋長は550m。形状は晴海大橋とほぼ同じで、展望部分が設置されている。2018年11月、環状2号線豊洲-築地間暫定開通に伴い、一般への供用が開始された。



# 5基の水門で止めるぞ高潮!

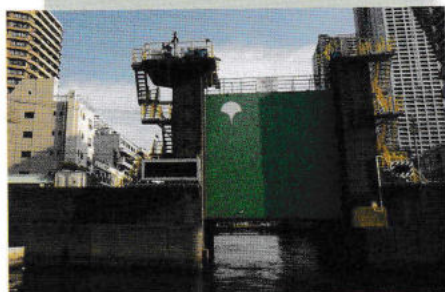
このエリアには5つの水門があります。朝潮水門は門扉をドアのように90度回転して開閉するスイングゲート式。その他の水門は吊り下げた門扉を上げ下げするローラーゲート式です。

ローラーゲート式は構造上、水を止めるのが簡単で、摩擦係数も少なく、大規模な水門にも使えます。

す。その一方、水路を通行する船の高さに制限が生まれます。また景観的にも見通しが悪くなる欠点を持っています。その点、スイングゲート式は上部構造がないため、通行する船の高さを制限しませんし、景観的にも目立ちません。ただ、流木などが挟まり、きちんと閉まらない可能性も持っています。



## 1 浜前水門



形式	単葉ローラーゲート
幅	8.4m × 1連
上空制限高	4.4m
竣工年度	昭和39年
管轄	都港湾局

## 3 住吉水門



形式	単葉ローラーゲート
幅	4m × 1連
上空制限高	5.65m
竣工年度	昭和40年
管轄	都建設局



## 2 月島川水門



形式	単葉ローラーゲート
幅	11m × 1連
上空制限高	8.6m
竣工年度	昭和39年
管轄	都建設局

## 4 佃水門



形式	複葉ローラーゲート
幅	11.4m × 2連
上空制限高	6.6m
竣工年度	昭和38年
管轄	都港湾局

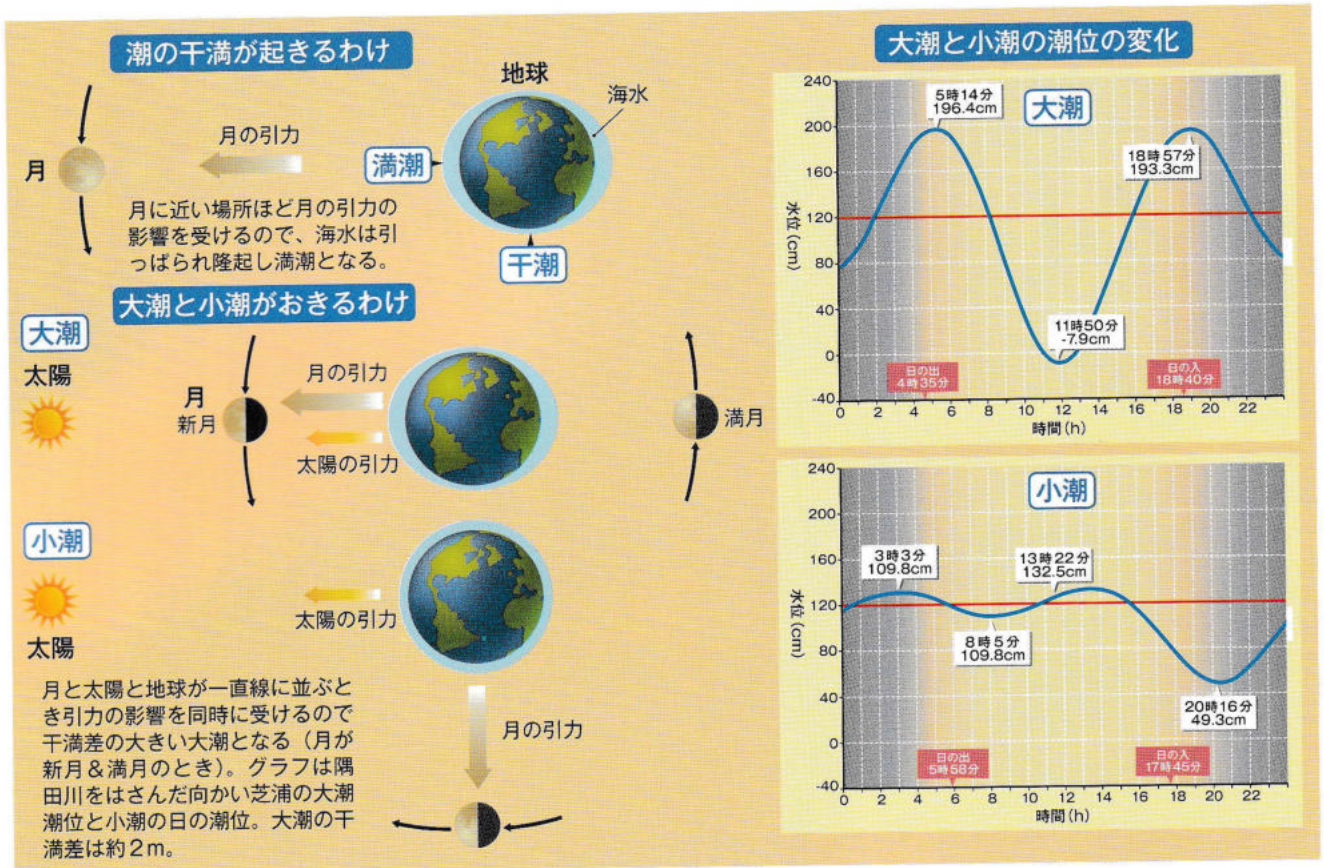
## 5 朝潮水門



形式	スイングゲート
幅	11.4m × 2連
上空制限高	なし
竣工年度	昭和39年
管轄	都港湾局

※高さの基準となる水面は全てA.P (Arakawa peil) = 荒川工事基準面





## 伊勢湾台風の教訓から生まれた5つの水門

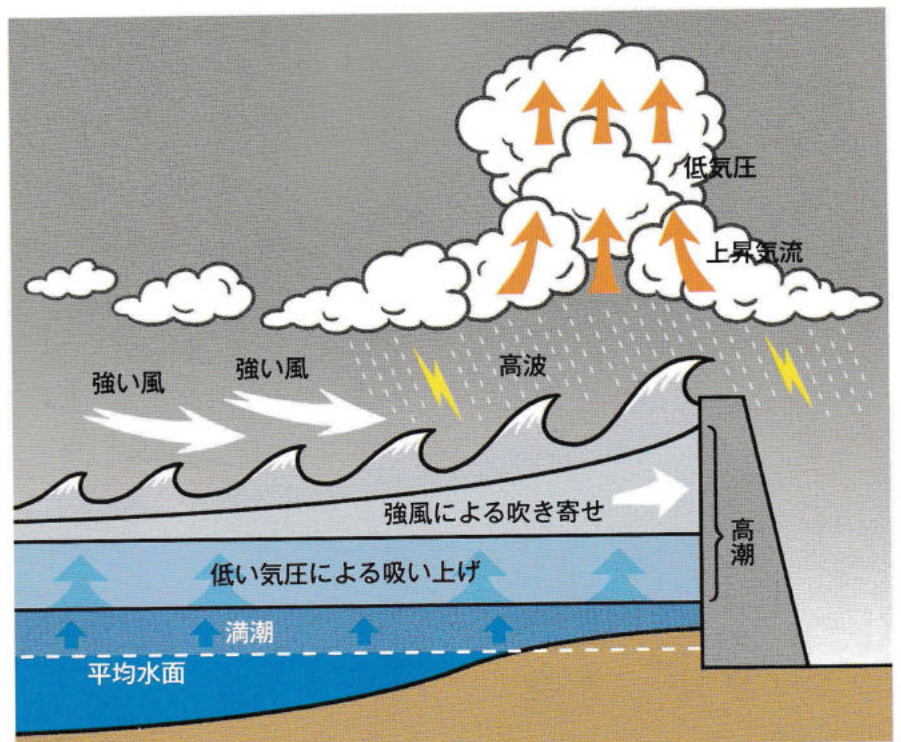
5つの水門が建設されたのはどれも1963～65年のこと。これは1959年に日本を襲い、死者約5000人、被災者数153万人という甚大な被害をもたらした伊勢湾台風の教訓をもとに治水対策が急がれた結果です。空前の大被害は記録的な高潮によってもたらされました。では高潮はなぜ起きるのでしょう。

まず、潮の満ち引きから考えてみます。潮の干満は地球の自転による遠心力と月の引力の影響で1日に1回～2回起こります。

干満差が大きい状態を大潮、逆に水位の変化が小さい状態を小潮といいます。大潮は太陽と月が直線に並び、引力がより大きく影響する新月、満月に起こります。上のグラフを見てもわかるように大潮のときの海面は約2mも差があるのです。

ここまでは想定内です。しかし、台風などの低気圧がやってくると海面はさらに盛り上がり、まず台風の中心は気圧が低いために海面は吸い上げられます。加えて台風の強い風により大量の海

水が岸へと吹き寄せられます。こうして起きる異常な潮位が高潮です。しかも東京湾は湾口が南に向いており、遠浅の海が陸地に入り込んでいるため、湾奥は被害が顕著に表れるので注意が必要です。



イラスト/宇和島太郎



# パパ、ママ、あの船は何をしているの？

## 港の清掃、消防、管理をする船

海面に漂う流木やゴミなどを回収する清掃船、船舶や沿岸の工場で発生した火災に対応する消防船、海底の状況を調査し浚渫工事の計画を立てる測量調査船。その他、港や海の安全を守る船たちです。



### 清掃船

「第二清海丸」。船首には大きな口が開いており、そこから海上に浮遊するゴミ等を回収する。東京都港湾局が所管する清掃船は全部で6隻（すべて黄色）。東京港内の水域に浮遊するゴミや流木などを回収し、分別運搬処理している。永代橋より上流の隅田川及び運河は建設局管轄で「建河清」という緑色の清掃船が活躍している。



### 測量調査船

「たんかい」は東京都港湾局の測量調査船。マルチビーム測深機を搭載し、海底状況を立体画像に変換。このデータを基に浚渫工事の計画が立てられる。



### 監視船

「はやかせ」は東京都港湾局の監視船。港湾や埠頭の不法占拠や不法係留、また流出油の監視・警備が主任務。



### 消防艇

「みやこどり」は東京消防庁臨港消防署に配置されている大型化学消防艇。タンカー火災や沿岸危険物施設の火災に対応するために放水砲を6基装備し、合計で毎分7万リットル（ポンプ車35台分）の大量放水が可能。全長43.2m。巡航速度約20ノット（時速37km）。臨港消防署には他に「すみだ」「はるみ」「しぶぎ」「はやて」の計5艇の消防艇が配置されている。



### 不発弾探査船

月島川に浮かぶこの船は、海に沈んでいる不発弾を探査する船らしい。浚渫工事で、事故が起きるのを防ぐためだそう。

## 乗客を乗せて運ぶ船

夜になると蛍のように海を漂う屋形船。ほかにも隅田川上流にある浅草とお台場を結ぶ水上バス、ランチやディナーが楽しめる東京湾クルーズ船、大島に向かう高速ジェット船。観光客を乗せる船もたくさん見ることが出来ます。



### 屋形船

船上で宴会や食事を楽しむ船。江戸時代、大名や豪商などに花見や月見、花火などの遊びに愛用された。特に隅田川の屋形船は豪華であったという。明治維新の後も引き続き親しまれたが、高度成長期、海川の水質の悪化などで下火になった。水質の改善が進むとともに、観光利用できるとして見直されつつある。



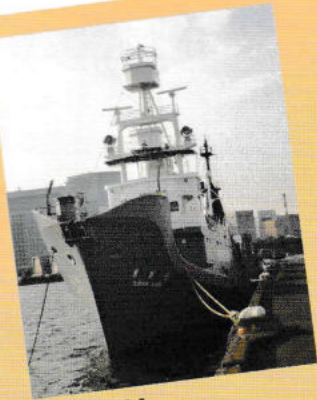
### 大型客船

晴海客船ターミナルには大型クルーズ客船がよく停泊している。写真は「はしふいっくびーなす」（183.4m、620人乗り）。ほかに「ふじ丸」「にっぽん丸」「飛鳥Ⅱ」などの日本籍船のほか、外国籍船の「Celebrity Millennium」、「CRYSTAL SYMPHONY」、「Azamara Journey」、「Voyager of the Seas」なども訪れる。入港情報は東京都港湾局のサイトで確認できる。  
<http://www.kouwan.metro.tokyo.jp/kanko/cruise/nyukou.html>



## 海の調査、船員の育成をする船

海に囲まれた島国日本は、海洋の調査研究も盛んです。海のプロを目指す学生たちを乗せる練習船、研究者を乗せ世界の海を航海する調査船も豊海・晴海にある埠頭で見ることができます。



### 目視採集船

月島埠頭に停泊していたユニークな形この船は共同船舶が所有する目視採集船「勇新丸」。鯨を捕獲するために集船「勇新丸」。鯨を捕獲するために集船「勇新丸」。鯨を捕獲するために集船「勇新丸」。



### 学術研究船

「白鳳丸」は海洋生物、地球物理・化学、地震などの調査研究を目的とする独立行政法人海洋研究開発機構が管理する学術研究船。全長100m。2004年の国立大学独立行政法人化の際に東京大学海洋研究所（現・大気海洋研究所）から移管された。



### 漁業調査船

「開洋丸」は水産庁に所属する漁業調査船。流水域及び熱帯域を含む世界の海で、さまざまな調査機器と大型表中層トロール網を使って、水産生物の資源調査、有用生物の発掘及び資源動向に影響を与える海洋環境調査などの研究を行っている。全長93m。



### 練習船

「海王丸」は独立行政法人航海訓練所に用船契約される形で運航されている大型練習帆船で、客船やタンカー、フェリーなどの船長、機関長育成を目的とした実習訓練をする。全長110.09m、マストの高さは43.5m。航海訓練所では他に、日本最大の帆船日本丸、ディゼル機関を備えた大成丸、銀河丸、青雲丸の5隻の練習船で航海訓練を行っている。



### 海洋実習船

「神鷹丸（しんようまる）」は東京海洋大学の練習船。日本周辺から太平洋、インド洋の赤道海域までを主な実習教育、調査研究の海域とし、乗船実習、海技教科の実習、トロール、イカ釣、マグロ延縄漁業などの実習を行う。東京海洋大学には他に「海鷹丸（うみたかまる）」、「青鷹丸（せいようまる）」、「ひよどり」、「汐路丸（しおじまる）」という練習船がある。

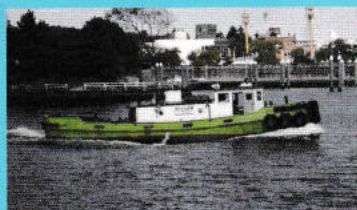
## 浚渫や工事に携わる船

隅田川から流入し堆積した大量の土砂を取り除く「浚渫」は船舶航行の安全を確保するために欠かせません。浚渫だけでなく、運河沿いの遊歩道建設や護岸工事でも活躍しています。



### 押船（おしふね）

台船、土運船など非自航運搬船や作業船などの船尾に連結して一体型の船のようにして押し進める船舶。一般に船首部にある連結装置の方式により独特の船首形状をしているが、このエリアで見かけるのは、橋が低いこともありブリッジは低くシンプルな形の船が多い。



### 曳船（ひきふね）

船舶の出入港、離接岸時の補助作業に使われる、いわゆるタグボートだが、佃・月島エリアで見かける曳船の多くは、非自航作業船、各種浮体の曳航に使用されている。スピードはそれほどでないが力持ち。



### グラブ式浚渫船

グラブバケットによって水底土砂をつかみ揚げ、土運船に積載する浚渫船。自航と非自航（他の船の力を借りず、自分で動ける船かどうか）がある。



### バックホウ式浚渫船

バックホウと呼ばれる油圧ショベル型掘削機を搭載した浚渫船。バックホウは、掘削深度および半径を大きくするために台船の船首端の低い位置に据え付けられている。



僕らは  
みんな  
生きている

# 佃・月島エリアの 水辺の生き物図鑑

水質の悪化と埋立により浅場が失われたことで、一時期、多くの生き物が姿を消してしまいました。環境が改善されるにしたがい、再び生き物が姿を戻しつつあります。かつては直立護岸だけでしたが、カニなどの小さな生き物が住みやすい勾配の緩やかな護岸、捨て石護岸なども取り入れられはじめました。カニの卵や幼生を求めて小魚が集まり、それを狙って鳥や大型魚がやってきます。こうして命は巡っているのです。



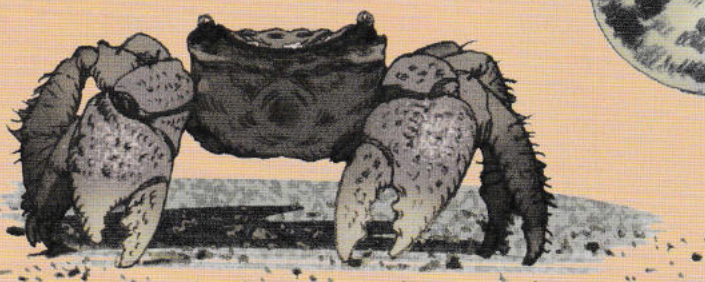
ユリカモメ



オナガガモ

## カモメの仲間

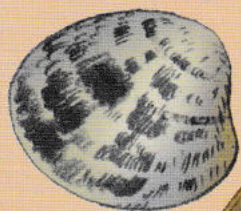
ウミネコ、ユリカモメ、セグロカモメなどを見ることができる。ウミネコは1年中いるが、ユリカモメ、セグロカモメは冬鳥として飛来する。クチバシと脚が黄色いのがウミネコ、赤いのがユリカモメ。セグロカモメは大型で、クチバシは黄色、脚はピンク。



## カニの仲間

クロベンケイガニ

よく見かけるのはクロベンケイガニ。甲のゴツゴツした感じから、武蔵坊弁慶になぞらえてつけられた。石の隙間や穴など暗く湿った物陰を好む。日差しが強いと穴の中でじっとしているが、涼しくなるとエサを探しに動き回る。



アサリ

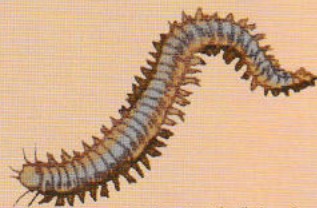


## 二枚貝の仲間

おなじみのアサリ、マガキの他にもムール貝の仲間であるヒバリガイやホトギスガイなどを見ることができる。いずれも海中のプランクトンや有機物をろ過してエサにする。

## ゴカイの仲間

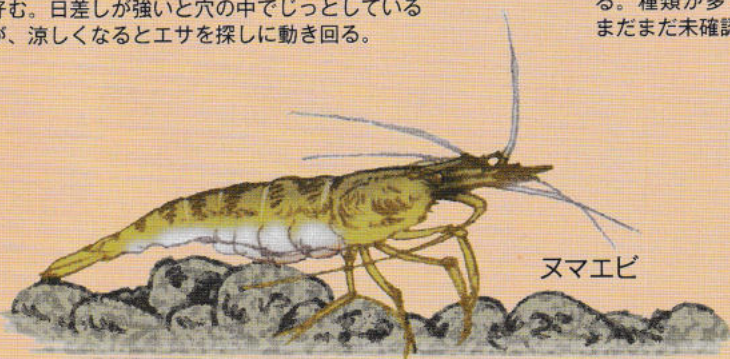
見た目は気持ち悪いが、とても大切な生き物。穴を掘って棲むものが多く、魚類、甲殻類、鳥類などのエサになるほか、底質環境を調査する際の指標として使われる。種類が多く、現在約8000種だが、まだまだ未確認の種がいる。



アシナゴカイ

## エビの仲間

スジエビの仲間やヌマエビの仲間など小型のエビを見ることができる。生きているときは半透明で、死ぬと白濁する。小さなハサミを使ってエサをちぎり、せわしなく口へと運ぶ動作を繰り返す。スジエビの方がハサミのついた手が長い。



ヌマエビ



## サギの仲間

サギ類のクチバシや羽の色は、季節により変化する。春から夏の派手になった状態を夏羽、冬の地味な羽を冬羽という。白色のサギでは最大のダイサギは首とクチバシが長い。チュウサギはクチバシが短めなので頭が大きく見える。コサギは脚の指が黄色いのが特徴で、夏には頭から長いかさり羽(冠羽)がでる。

コサギ



カワウ



## ウの仲間

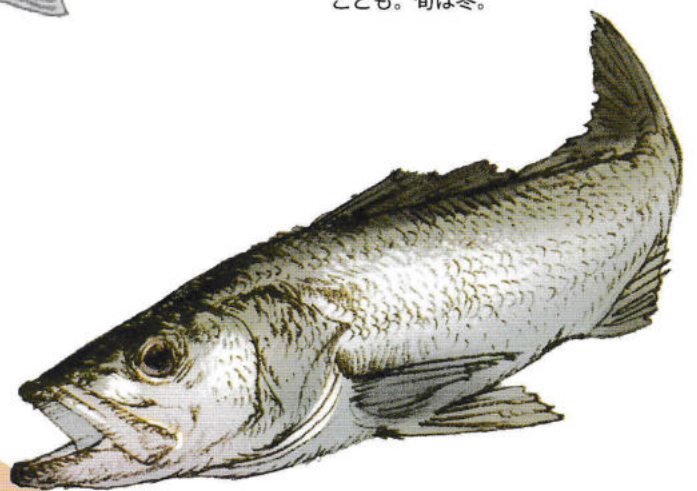
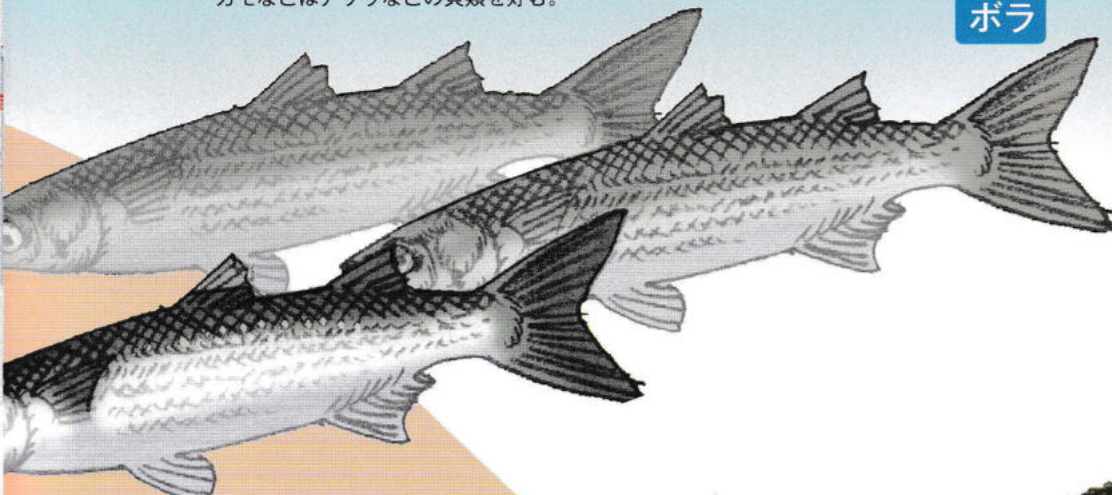
ウミウとカワウを見分けるのは難しい。いずれも巧みに潜水して小魚を捕らえる。翼に脂分が少なく水をはじかないため、陸上で翼を広げて乾かしている姿をよく見かける。カワウは数が増え過ぎ漁業被害などが問題になっている。長良川など日本の鵜飼いで使われるのはウミウ。

## カモの仲間

冬の渡り鳥の代表格。オナガガモ、スズガモ、ホシハジロなどが水上に浮かんでいるのを見かける。一般に冬は雄の方が派手な色合いをしている。種類によって好んで食べるエサは異なり、水草など植物主体の雑食のものが多く、スズガモなどはアサリなどの貝類を好む。

## ボラ

水質の汚染に強く都市部の港湾、運河にも生息する。主なエサは水底に積もった有機物や付着藻類。エサは砂泥ごと口の中に入れ補食する。出世魚で、関東では小さいものからオボコ→イナッコ→スバシリ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる。海面から高く跳び上がり、航行中の船の甲板に飛び込むことも。旬は冬。

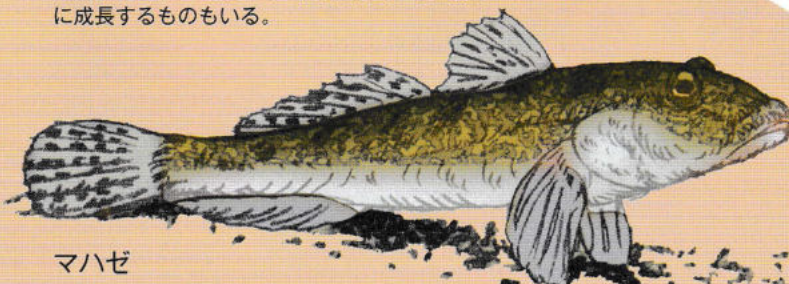


## ハゼの仲間

マハゼ、チチブ、シマハゼ、ウロハゼなどが見られる。都市部の河川、運河にも多く生息する。普通は胸びれを動かして泳ぐが、長い距離を泳ぐのは苦手。天ぷら、唐揚げ、佃煮などにして食されるほか、マゴチ釣りのエサにもなる。基本的に寿命は1年だが、年を越して25cm以上に成長するものもある。

## スズキ

大きさと呼び名が変わる出世魚。関東ではセイゴ→フッコ→スズキと変化する。ルアーフィッシングの獲物としても、白身のおいしい食材としても人気。肉食性で小魚や甲殻類を大きな口で補食する。沿岸漁業で漁獲され、全国で最も漁獲量が多いのは千葉県船橋。旬は夏。エラぶたは鋭く危険。



マハゼ

イラスト/北村公司



# 月島は日本のマンハッタン!?

約370年前、佃に暮らし始めた大坂の漁師は34人。それが今や中央区月島地区の人口は7万4222人(2019年1月1日現在)。

お隣の埋め立て地、江東区豊洲地区(豊洲・東雲・有明)も併せて、ここ15年の人口の変化を表してみました。人口減少が進む日本で、このエリアの人口増加は驚異的です。ちなみに月島地区の人口密度は約3.2万人/km<sup>2</sup>で、これはニューヨークのマンハッタン(約2.6万人/km<sup>2</sup>)をも上回る数字です。

築地市場の豊洲移転に加え、東京五輪開催が決定したことから、高層マンションの建設に拍車がかかり、BRT(バス高速輸送システム)計画、海上交通計画も浮上するなど、ますます劇的な変化が起きそうな魅力的なエリアです。

さて、江戸時代から埋め立てが可能だったのは、東京湾の湾奥で

水深が浅く、海が穏やかだったからです。江戸前の海は生き物の宝庫でした。月島に生まれ育った古老の話では、戦前、現在の豊海あたりで、海水浴をして遊び、晴海はハマグリがよく採れ、有明ではハゼがよく釣れたとのこと。

一度は死んだ海といわれた東京湾ですが、下水道整備や工場排水の規制などで水質はずいぶんよくなりました。でも、水がきれいになっただけではだめです。多様な生物を増やすには、稚魚や貝類、エビカニが棲める浅場、産卵場所や隠れ家としての藻場などが必要だからです。

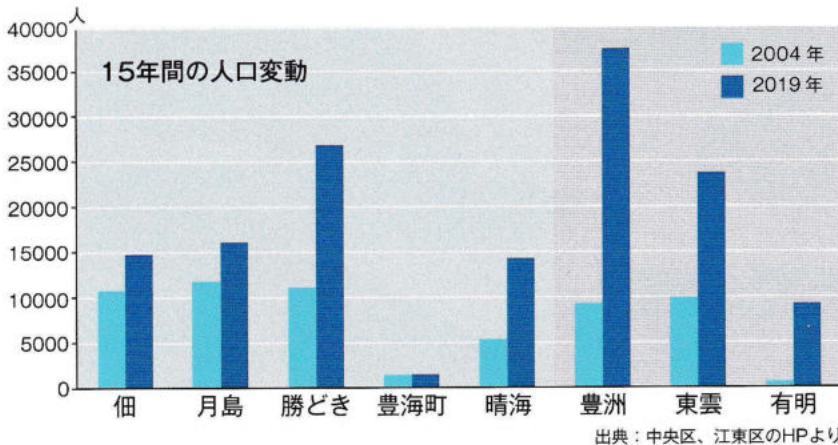
夜景が美しいだけでなく、大都会なのに生き物も豊富な海になったら素晴らしいですね。生き物が暮らしやすい場所は、私たち人間も暮らしやすい場所であることに間違いのないのですから。



再開発が進み、人口も急増する湾岸エリア。



水路を活かした海上輸送も見直されている。中央区立京橋図書館所蔵。



拍車がかかる湾岸の高層マンション建設。

## 解説ノート

2014年 12月発行  
2019年 2月 2刷

## 佃・月島、海の記憶。

### 企画・発行

一般財団法人 東京水産振興会  
〒104-0055  
東京都中央区豊海町5-1  
豊海センタービル7階  
☎03-3533-8111

### 取材協力

志村秀明 (芝浦工業大学)  
二瓶文隆  
藤倉和男  
後藤正昭  
中島敏之 (『伊勢啓』)  
\*  
もんじゃ焼き「錦」  
レバフライ「ひさご家阿部」  
佃煮「天安」

中央区立京橋図書館  
マルハニチロ物流  
東京経節センター

### 参考文献

『月島再発見学』(志村秀明/アニカ)  
『月島物語』(四方田犬彦/集英社)  
『東京都内湾漁業興亡史』  
(東京都内湾漁業興亡史刊行会)  
『佃島の今昔』(佐原六郎/雪華社)

『その昔 佃島漁師夜話』(石井きんざ)  
『もんじゃの社会史』  
(武田尚子/青弓社)

### デザイン

podo

### 編集

遠藤成 (ノーチラス工房)  
西岡正三